

## 佐藤 光・松島正博・田畑理一・松澤俊雄 四教授 退任記念号に寄せて

佐藤光教授，松島正博教授，田畑理一教授そして松澤俊雄教授が，平成 25 年 3 月をもって，大阪市立大学経済学部を退任されることになり，わが経済学部が長年にわたって誇りとしてきた，それぞれ，社会経済論，比較経済論，交通経済論，および農業経済論の 4 巨星と惜別しなければならないことになりました。

佐藤光教授は京都大学経済研究所から赴任されてから近代経済学，特にミクロ経済学を中心に研究されてきたが，既存の経済理論によるアプローチにあきたらず新たに社会経済論の構築に邁進された。この社会経済論は近代経済学を基礎としながらも，学際的アプローチを採用する独自の研究である。その成果は，数多くの著書として結実しており，ここ 20 年ほどの間は 2 年に 1 冊ほどの精力的なペースで著書を刊行してこられた。その活動はとどまらず退任される前年の平成 24 年に『カール・ポランニーと金融危機以後の世界』を出版された。

佐藤教授はそうした研究活動の中で学部学生は言うに及ばず，数多くの大学院生の指導・教育に大きな貢献をされてきました。とりわけ，かつて，佐藤ゼミ，ないしは大学院の講義を聴講した多くの院生が，大学等の研究機関に職を得て現在活躍しています。

また，佐藤教授は経済学研究科長・経済学部長の任を務めたほか，世界経済と日本経済の構造改革に関する批評活動を各種メディアで展開された。

松島正博教授は経済学部および経済学研究科では農業経済論などの講義を担当され多くの学部生と大学院生の教育に携わってこられた。

松島教授はその研究歴の前半では，農業政策金融，日本および豪州の米の生産・流通・価格形成をめぐる研究に従事された。その研究関心の中心は国家による全面統制からの脱却，（先物市場をふくむ）米市場の創設と整備をめぐる問題であった。そして，研究歴の後半では，日本の農業の構造的な問題（零細分散錯圃制）の歴史的起源，存続の経済的根拠，その解消策を研究テーマとされた。松島教授はこうした研究成果を数多くの論文として発表された。そして平成 6 年に出版された『オーストラリアの米産業』を皮切りに 18 冊の単共書として出版してこられた。

松島教授は農水省，旧通産省の審議会専門委員や多くの諮問委員を歴任し，米問題，食糧問題等に関する多くの講演を行われた。また学内では経済学研究科長・経済学部長を務められた。

田畑理一教授は一貫してソ連・ロシア研究に従事されその成果を平成 3 年に『比較経済研究』として発表され，その後も持続して編著や論文を発表してこられた。比較経済体制学会では幹事を連続して務め，事務局長，学会誌編集長などを歴任された。また，科学研究費補助金によ

る共同研究では3回にわたり研究代表者となるなど多くの共同研究に積極的に関わってこられた。

田畑教授は学部・大学院で比較経済論などを担当され、多くの卒業生、研究者を世に送り出した。とりわけ直接指導した大学院後期博士課程修了者および単位取得者はすべて大学の教員となっている。

また田畑教授は各種の諮問委員を務め、大阪市立大学生協理事長を11年間、また経済学研究科長・経済学部長を務めるなど多くの役割を果たされた。大学関係者等にその開設が永らく望まれていた杉本町東口の開設にも大きな役割を果たされたことは記憶に新しいところである。

松澤俊雄教授は愛知大学から大阪市立大学経済研究所に赴任され21年間経済研究所に在籍された。その後、平成15年4月から経済学部に移られたので10年間が経済学部での在籍年数になる。とはいえ、当時は経済研究所のスタッフと経済学部のスタッフは同じ研究棟にあり、部分的に学部生や大学院生の教育に携わっていただいていた。経済学部に移籍されてからは本格的に学部生・大学院生の指導にあたっていただき、先生の指導によって研究者となった院生も多くいる。

松澤教授は交通経済論を専攻され、16冊の編著書があり、また多くの論文を執筆され学会報告も45回を数える。そして日本交通学会で長年にわたり理事を務め、さらに常任理事・副会長を歴任され学会の発展に尽くされた。

松澤教授は多くの公的委員を務め、その研究成果をもとに都市交通等に関して適切なアドバイスをしてこられた。また、経済研究所長を務められた。

紙幅の関係で、四教授の研究上の貢献、大阪市立大学、同経済学部における研究・教育に対する貢献の詳細を述べることはできませんが、その貢献は極めて大きいものであります。今後とも大阪市立大学の我々に一層のご指導・ご鞭撻をお願いするとともに、四先生の一層のご研究の進展を心より期待しております。

ここに佐藤光・松島正博・田畑理一・松澤俊雄四教授の退任を惜しんで、この一冊を編集しましたが、この『経済学雑誌』が、四先生の研究・教育の影響力の大きさの一端を披露できるものと信じています。

大阪市立大学大学院経済学研究科長・経済学部長

森 誠